

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2003年放送分](#) > 12月20日放送分 買って 食べて 遊んで～市場を食の総合拠点に～

12月20日放送分 買って 食べて 遊んで～市場を食の総合拠点に～

12月20日 (TX・TVO・TSC)

21日 (TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVQ・OTV)

22日 (BSJ)

青森有数の漁港を有する八戸市に「魚の街」のイメージを体現した組合がある。昭和55年に発足した(協)八食センター(出資金6億4,865万円、組合員数53名)は、設立以来、数々の苦難を乗り越えて、今なお、魅力ある郊外型食品「市場」を運営している。最近では、東北新幹線八戸駅開業を契機と捉え、「市場」の魅力を残しつつ、飲食部門の強化と店舗のリニューアルを実施。常に進化し続ける「市場」を創造する同組合の活動を紹介する。

買って 食べて 遊んで

～市場を食の総合拠点に～

[視聴覚教材No. TV15-38](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



ここは去年の12月に東北新幹線が開通した八戸駅。今日は青森県有数の漁港のある八戸で、志垣さんが『市場』の賑わいを持ったショッピングセンター、八食センターを訪ねる。

この八食センターは、新幹線の開通に合わせてリニューアルを実施した。今月がリニューアル1周年を記念した創業祭を開催中。





創業祭で賑わう店内。

こちらが八食センターを運営する協同組合の福田理事長。



リニューアルの時に、市場ならではの新鮮な魚介類を生かした回転寿司店や800人を収容できる食堂などを増設。団体客もは入れるようになり集客力が大幅にアップ！

元々、八食センターは、商店街の老朽化に悩んだ地元商店主達が、国の融資を受けて建設したもの。組合では、組合員の融資返済の負担を減らすため、ある工夫を行っている。





その工夫とは、別会社を設立し、その会社の利益を借金の返済に当てること。先ほどの『回転寿司店』も、その一例。

POINT: 組合で運営する別会社の利益でリニューアルを行い組合員の負担を軽減



今、八食センターが力を入れているのが販促活動。若手組合員が中心となって、料理をふるまったり、アマチュアバンドの演奏などの企画を提案している。



販促活動のモットーとは、「地元のお客さんに還元すること。地元の方にも観光客の方にも、地元の市場に来たと感じてほしい。」と、販促委員長の澤口氏は語る。

POINT: 地元客に魅力ある店づくりで観光客も呼び込む



組合への融資を担当した青森県庁の村上副参事。「活力ある店舗でなければ生き残れないという危機感を共有し、短い期間でチャンスを生かした」ことがポイント、と分析。



鮮魚店の坂下さんは、「お客さんが食堂で食べたものを買ってくれる。遊びながら、食



べながら、買い物をして喜んでくれる。」
と、お客さんとの触れ合いを語ってくれた。

[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN